

## キラキラ R-50の世界

人生五十年なんて、今は昔。世の中には、時間とお金を有効に使う五十歳以上を対象にした商品や企画が続々と登場している。海外旅行に語学留学、音楽教室、映画、そしてインターネットサイト……。元気な中高年たちが日本社会を活性化させる。若者ではない。そう、主役はシニア。「R-50(五十歳未満お断り)」の世界をのぞいた。

東京都多摩市。毎週日曜日の午後、都内や隣接する神奈川県などから楽器を手にした50歳以上の男たちが集まる。トランペット、サクソホンにドラム…。男たちの中には専属のボーカリストも。「テネシーワルツ」などスタンダード曲を何回も休憩を挟みながら練習に励む。演奏が1曲終わるたびに「今のいいねえ」と笑い声が響く。

「タマドリームジャズオーケストラ」。2001年に誕生したこのバンドの参加資格は、原則50歳以上。メンバー18人の平均年齢は65歳。最高齢は83歳だ。

「それまで若い人たちと一緒に活動していたけどペースが合わない。シニアだけでのんびりと好きな音楽をやりたかった」とバンドマスターを務める佐藤進さん(59)。

地元の多摩ニュータウンでは住民の高齢化が問題に



東京都多摩市の映画祭会場でライブを披露するタマドリームジャズオーケストラ

Senior

なっている。メンバーは高齢者の応援団を自任し、敬老行事などでライブを披露する。掲げるモットーは「お年寄りに夢を、若者に喝を、地域に活性化を」だ。

今では会員約400人に上るファンクラブを抱える。「聴いてくれる人も同じ世代。若い人たちと反応が違う。われわれを見て、私も頑張ろうと言ってくれる。こちらやる気が起きますよ」と佐藤さんは話す。「うまさでは若者に負けるかもしれないけど、この味わいは出せないはず」とも。

昔の技を思い出す人もいれば、長年の夢を求める人もいる。ヤマハが全国で開いている「50歳からの音楽レッスン」は、約2000人の中高年が楽器演奏に挑戦している。

「定年後の生活を充実させるために楽器を選ぶ人が増えている」と同社の担当者。人気の楽器はピアノ。続いてサクソホン、ギターの順という。